



2010年 あ…あけまして  
おめでとうございます。  
今年1年、よろしく。



## ◆ Contents ◆

- <トピックス> ・展示コーナーをご利用ください  
・10～12月のベストリーダー  
・図書館報「沁雲」第10号
- <お薦め図書> 「一日一名言」
- <野村課長(7)> インターネットの情報は…
- <シネマ&ブック(7)> 「伊坂幸太郎」

## &lt;10月～12月のベストリーダー&gt;

- ⑬ Essential 細胞生物学 / Bruce Alberts [ほか] 著
- ⑫ 物理化学 / Walter J. Moore 著
- ⑫ ライフサイエンスのための物理化学  
/ James R. Barrante 著
- ⑫ アトキンス物理化学 / P. W. Atkins 著
- ⑫ 1Q84 / 村上春樹 著
- ⑪ 獣の奏者 / 上橋菜穂子 作
- ⑩ 高分子科学実験法 / 高分子学会 編
- ⑨ 無機化学 / F. A. コットン [ほか] 著

※頭の数字は貸出回数

## ● 展示コーナーをご利用ください

ゼミなどの学習成果の発表や、資料・作品展示の場として、  
図書館の展示スペースを提供しています。

## ■ 1階・玄関入ってすぐ右手

大型展示ケース 2台  
パネル板(90×180cm) 2枚程度立てられます。

## ■ 2階・吹き抜け南側

小型展示ケース 2台  
壁面利用によるパネル展示ができます。

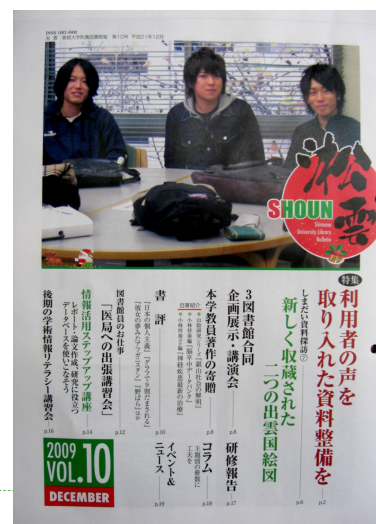
実際に現場をご覧ください。また、展示グッズや方法などに  
ついて、図書館職員が相談にのります。希望があれば、カウン  
ターへ申し込んでください。

2階展示コーナーで「教育者  
ラフカディオ・ハーン」のパネ  
ル展示を開催中です。



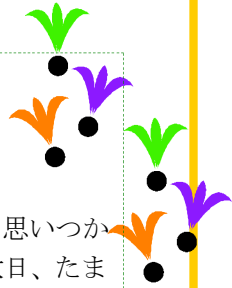
## 『沁雲』第10号 発行しました

入口の刊行物コーナー、カウンター周辺  
においてあります。表紙を飾ってくれた3人  
は、総合理工学部の学生さんです。



## <お薦め図書>

### 『一日一言：歴史との対話365』(新潮新書) 関厚 夫著



2010年がスタートし、今年こそ新しいことにチャレンジしてみたい。でも恥ずかしいことに何も思いつかない。日記や習い事と意気込んでみたところで、三日坊主になることが目に見えている。悩むこと数日、たまたまこの新書が図書館に届いた。「これだ！」365日それぞれゆかりのある偉人の言葉とエピソードが紹介されている。1日1ページだから無理なく読めるし、このところの歴史ブームにも乗れてしまう。一石二鳥。

では早速「1月1日」は…誕生日だという、あの一休さんだ。きっと有り難いお話と思ったら…

『我、本来迷道の衆生(しゅじょう) 愚迷、深き故に迷(まよい)を知らず』

(自分は愚かで迷いすぎて、迷っていることさえ知らない)

新年早々、ため息が出た。深い！深すぎてよくわからない。同時に、小さな悪知恵を働かせていた自分が情けなくなった。それにしてもこの一休禅師、イメージとまったく違う。→いったいどんな人なのか興味が湧いてくる。→ちょっと調べてみる。→当時としてはとんでもなく奇抜なお坊さんだとわかる。→おもしろい。もしかして、こんな感じでいいのかも。(F)

【081/SH61-1/344 本館1階 文庫/新書】※現在新着コーナー



## <野村課長のワンポイント(7)>

### インターネットの情報は玉石混合？

インターネットの情報は、信頼性が高いものから全く信頼性の低いものまで様々であることが良く指摘されます。しかし、だからどうなのでしょう。

玉があるのですから、インターネットの情報は気軽に、誰に遠慮することなく使えばいいのです。現に大人の多くが使っています。とりあえずの情報を得るためにはとても便利です。ただこの玉は、「玉磨かざれば光なし」の玉に相当するものですから、情報の出所や信頼性を確認する必要があります。

そして、玉だけではなく、あやしい石もあるわけですから、これを探すときには重宝します。極めて狭い地域の話や B 級情報など、インターネット普及以前は探すのに苦労した情報が簡単に入手出来ます。どんどん利用すべきです。

ところで、玉石は混合でしょうか、混交、混淆でしょうか。こればかりは、インターネット上だけでは決められないみたいです。



## <シネマ&ブック(7)>

### 伊坂幸太郎 & 中村義洋監督

伊坂作品にハマってしまった方は多いと思いますが、図書館でも『重力ピエロ』(貸出回数 64)『アヒルと鴨のコインロッカー』(71)『ラッシュライフ』(70)など人気があり、次々と作品が映画化されています。観る人によって作品に対する思い入れが違うので、アレが最高だったり、コレの方が良かったりと意見が異なるのは当然でしょう。

さて、この1月には待望の『ゴールデンランバー』が公開されます。『ジェネラル・ルージュの凱旋』の中村監督、堺雅人と竹内結子が再共演。一般人の逃走劇といえば、ハリソン・フォード『逃亡者』のキムブル医師を思い浮かべますが、『ゴールデン…』の青柳雅春には、学生時代の友人や恋人など、信頼できる仲間達が救いの手をさしのべてくれます。学生時代の仲間は一生の宝物ですね。

原作の面白さを裏切らない作品に仕上がっているそうなので楽しみです。(A)

## 卒論・修論 追い込み中?! ああ〜\(. .:)/ …あとで泣かないために

### 卒論・修論がんばれ!

卒論や修論で最後の追い込みに入っている人もおられることでしょう。ワープロ文書は、ページ数が多くなるとちょっとしたことで壊れて、読めなくなることがあります。提出一週間前の土曜日の夜にそんな事件が起こるかもしれません。頻りにコピーを作っておくことを心がけましょう。



「ライム」へのご意見・ご感想がありましたら、情報メディアルーム前の「図書館の声」BOXへ